

見どころ案内

ススキ (イネ科)

日本全国に分布し、秋の七草のひとつにも数えられています。かつては「茅(かや)」とも呼ばれ、屋根の材料や家畜の餌に使用されていました。十五夜で飾ったり、諺に使われたりと、身近な植物のひとつです。

タヌキマメ (マメ科)

花は青紫色で、毛に覆われた果実の中に種子をつけます。民間療法で使用されたり、アレロパシーによってネコブセンチュウの忌避効果があるので、コンパニオンプランツとして植栽されています。

展示会のご案内

- ◇展示資料館 1F (10/19~12/24)
- 特別企画 種子の不思議展
- ◇展示温室 (10/26~11/4)
- 秋の洋ラン展
- ◇園内全域(10/19~27)
- 秋のグリーンフェア

秋咲きバラ (バラ科)

秋バラが咲いています。春に比べて花の数は少なくなりますが、花の色が濃くなり、香りも強くなる傾向があります。また、気温も低いので長い間バラを楽しむことができます。

アリストロキア・ギガンティア

(ウマノズクサ科)

ブラジル島南部原産で、高さが数mになるツル性の植物です。花には独特の香りがあり、肉が垂れ下がっているような花を咲かせています。

ダリア (キク科)

花が牡丹に似ているので、テンジクボタンとも呼ばれます。メキシコの高原地帯の原産で、夏の暑さは苦手です。地下部はサツマイモ様の塊根ですが、耐寒性はなく花後に掘りあげが必要です。

ネリネ (ヒガンバナ科)

南アフリカ原産でヒガンバナに似た花を咲かせます。花弁に光沢があることから「ダイヤモンドリリー」との別名もあります。開花期が長く、1か月近く咲いているので、切り花やフラワーアレンジメントによく利用されています。

コスモス (キク科)

メキシコ原産の一年草で、日本には明治初期に本格的に広まりました。明治後期には全国に普及し、現在では秋を代表する花の一つです。ピンク、白、マゼンタ等の花が咲き始めており、満開はグリーンフェア期間中の予定です。

三波川冬桜 (バラ科)

10~12月に白色~淡紅の花を咲かせます。一度に多くの花をつけるわけではありませんが、長い期間咲いています。十月桜も花をつけています。

アルテルナンテラ (ヒユ科)

カラーリーフの代表的な植物です。花壇の縁取りや寄せ植えに多用されます。和名はモヨウビユ。中~南米原産で、現地では多年草ですが、霜に当たると枯れるので1年草扱いをします。

特別企画展 種子の不思議展

多彩な種子の秘密を実物やパネルを使って紹介します。飛ぶ種子の実験コーナーもあります。

